

おでかけ指数・宿泊稼働指数でみる西九州新幹線開業の効果 (開業後 1 カ月間)

2022 年 11 月 24 日

公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部

1. はじめに

去る 2022 年 9 月 23 日、佐賀県と長崎県にまたがって西九州新幹線武雄温泉駅～長崎駅間が開業した。開業に伴い、人流（交流人口）の増加、都市開発、定住人口の増加など、短期～長期におよぶ多面的な効果が期待される場所である。開業効果の検討にあたり、当会は CCC マーケティング総合研究所と共同で研究を行っている（共同による取り組みの詳細は「[九州経済調査協会と CCC マーケティング総研、西九州新幹線の開通効果を共同で発表](#)」を参照）。短期的に効果が表れると予想される人流に焦点をあてながら、当会は、地域経済データプラットフォーム「DATASALAD」(データサラダ; <https://datasalad.jp/>) 上で公表している「おでかけ指数¹」と「宿泊稼働指数²」という 2 種の人流データをもとに、沿線および周辺地域における来訪者の量的変化を中心に分析を行った。また CCC マーケティング総合研究所は、CCCMK ホールディングス株式会社が保有する T ポイント提携先購買データをもとに、西九州新幹線開通駅エリア（武雄温泉駅、嬉野温泉駅、新大村駅、諫早駅、長崎駅周辺エリア）への来訪者の質的变化を中心に分析を行った。

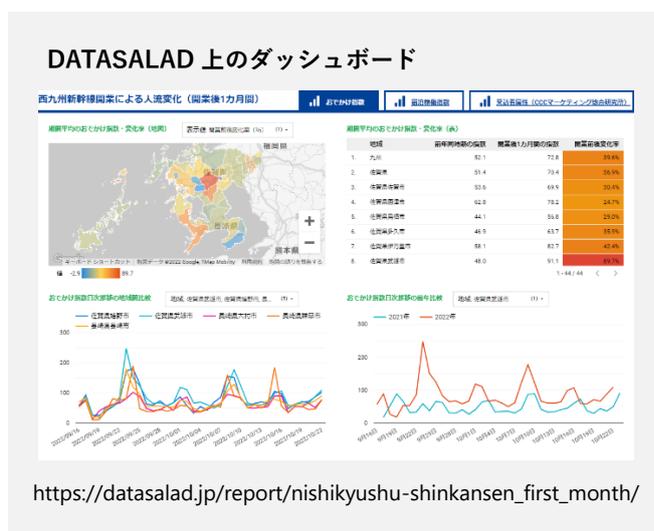
分析結果については、以下の通り両者より公表している。本稿はその一部として、当会が分析を行った開業後 1 カ月間における人流の量的変化の状況をレポートする。なお分析に用いたデータ（ダッシュボード）は、両者とも BI ツールを用いて可視化・公開しており、ウェブブラウザで閲覧可能である。分析レポートで扱っているよりも多くのデータを掲載しているため、アクセスしていただければ幸いである。

■ CCC マーケティング総合研究所による分析結果

- ・ コラム：[西九州新幹線の地域経済への波及効果は？](#)
- ・ 分析データ（ダッシュボード）：[西九州新幹線開業前後-来訪者属性比較](#)

■ 当会による分析結果

- ・ 分析レポート：本稿
- ・ 分析データ（DATASALAD 上のダッシュボード）：[西九州新幹線開業による人流変化（開業後 1 カ月間）](#)



¹ 当会が提供している人流モニタリングプラットフォーム「おでかけウォッチャー」(<https://odekake-watcher.info/>) の掲載データの一部を集約したもので、市区町村別の来訪者数を 2019 年の日平均来訪者数 = 100 として指数化したもの。DATASALAD 上では、来訪地側（着地側）と発地側の 2 種類の「おでかけ指数」を公表しているが、本稿では主に来訪地側を取り上げる。なお「おでかけウォッチャー」で提供している位置情報ビッグデータは、株式会社プログウォッチャーより提供を受けたものであり、承諾を得たユーザー（月間 2,500 万 MAU）のスマートフォンから取得したものである。

² 当会が宿泊予約サイトより取得したデータをもとに、日次の空室の水準を指数化したもの。原数値は 0 から 100 の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は 100 に、稼働状況が悪い場合は 0 に近づく。

2. おでかけ指数による来訪者数の分析

まず、「おでかけ指数」をもとに西九州エリアにおける来訪者数の変化をみる。おでかけ指数は宿泊に限定されない人流を反映するものであるため、相対的に近隣からの来訪者のウェイトが大きい（ただし非日常的な外出行動をとらえることを目的としているため、来訪スポットから20km圏内の居住者や、通勤通学者は除外している）。自家用車利用が比較的多く、新幹線利用による来訪者数増とは必ずしも結びつかないため、開業による直接的な影響は受けにくく、集客イベントの開催など間接的な影響を受けやすいと想定される。

開業日から1カ月間（2022/9/23～10/22の30日間）を「開業後」、前年同期（曜日を合わせた2021/9/24～10/23の30日間。ただし2022年は祝日が2日多い）を「開業前」として比較する。

開業後は、新型コロナウイルス感染拡大の第7波が収束するなかで人流の回復が進んだ時期にあたり、開業後の指数は九州全体で前年比+39.6%（指数は72.8）と上昇したが、西九州新幹線の沿線市の一部、これを大きく上回る伸び率となった（表1）。具体的には武雄市で同+89.7%（91.1）、嬉野市で同+73.2%（84.2）、長崎市で同+66.2%（73.4）となった。一方、中間駅にあたる大村市や諫早市は比較的伸び率が低く、沿線市のなかでも差が生じている。

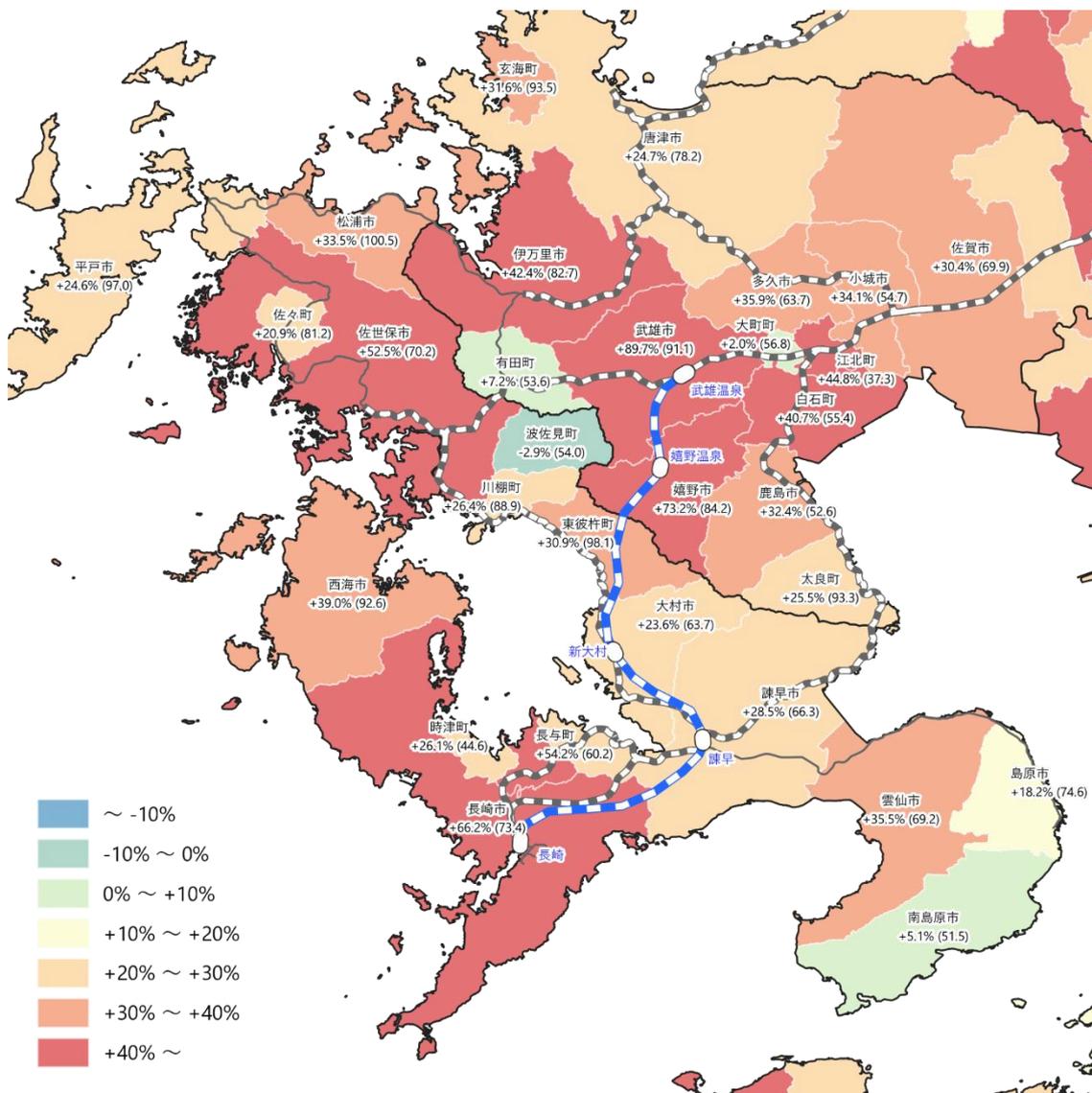
表1 おでかけ指数の開業前後比較

	開業前	開業後	前年比 (%)
	(2021/9/24-10/23)	(2022/9/23-10/22)	
九州	52.1	72.8	+39.6
佐賀県	51.4	70.4	+36.9
武雄市	48.0	91.1	+89.7
嬉野市	48.6	84.2	+73.2
長崎県	52.1	73.4	+41.0
長崎市	44.1	73.4	+66.2
諫早市	51.6	66.3	+28.5
大村市	51.5	63.7	+23.6

注) 原数値の平均 資料) 九経調 DATASALAD

新幹線開業に伴う交流人口の拡大は、駅が所在する沿線都市のみならず、その周辺においても期待される。図1は周辺地域を含めて開業前後を比較したものである。新幹線開通との関係は定かではないものの、同期間において佐世保市（前年比+52.5%）や伊万里市（同+42.4%）などでも人出の増加がみられた。一方、沿線の武雄市や嬉野市に隣接する佐賀県有田町や長崎県波佐見町は伸びておらず、並行在来線となった鹿島市や太良町も増加率が高いとはいえない。大村市や諫早市を含め、沿線および周辺地域に等しく効果が及んでいない状況は今後の課題である。

図1 おでかけ指数の開業前後比較（前年比による階級区分図）



注) 原数値の平均。ラベルは「指数前年比(指数)」 資料) 九経調 DATASALAD

開業後の交流人口拡大が一過性か持続的か、現時点では判断材料が不足しているが、開業後1カ月の推移は今後のヒントとなる(表2、図2)。

まず開業初日には各地で記念イベントが開催され、武雄市で前年比+558.8%、長崎市で+324.8%、嬉野市で+287.4%などと人流が大幅に増加した。

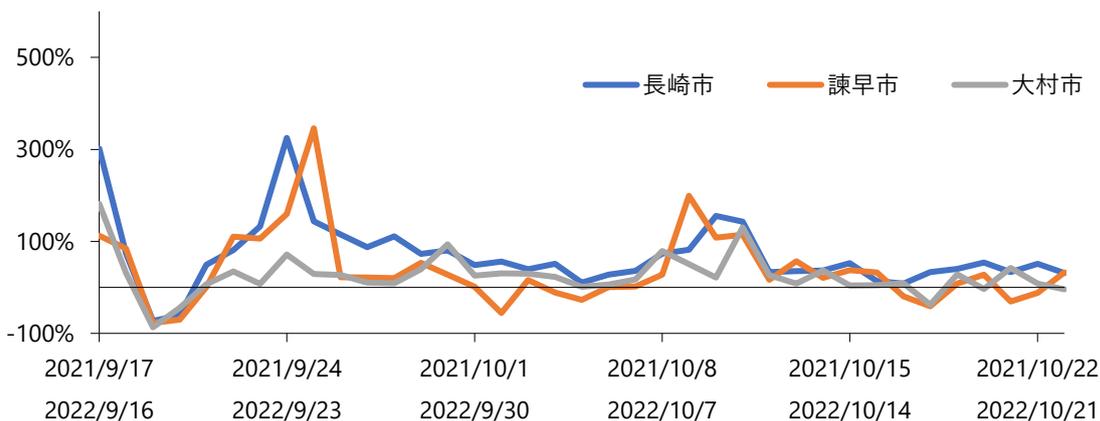
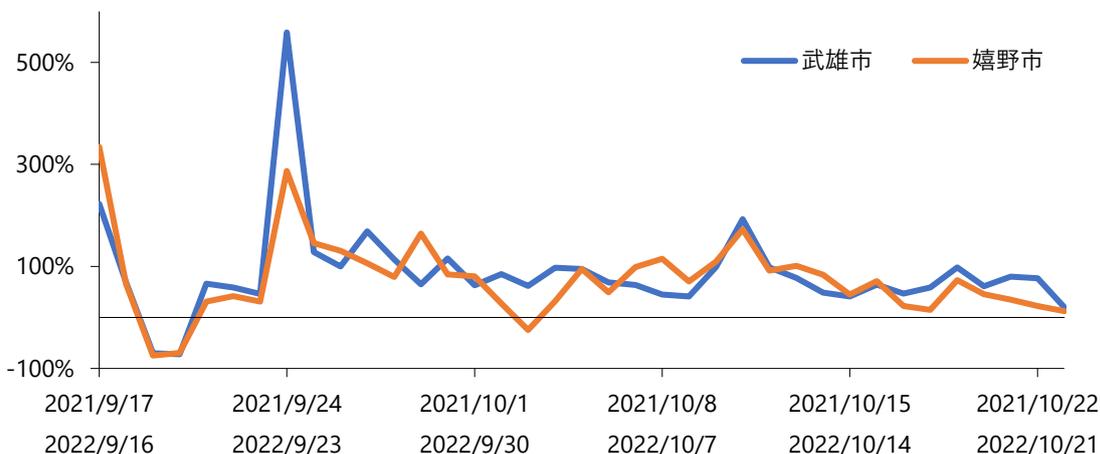
2日目~1カ月の期間では、武雄市が+77.1%と特に高い水準を維持している。継続的なイベント開催などの施策が貢献していると考えられる。一方で大村市や諫早市では初日、その後とも伸びが弱い。なお諫早市の日次推移をみると、他地域と異なる日に前年比の顕著な上昇下落がみられる。これはトランスコスモスタジアム長崎におけるV・ファーレン長崎のホームゲーム開催の影響である。

表2 おでかけ指数の開業初日および2日目以後の推移

	指数値		前年比 (%)	
	開業初日 (2022/9/23)	2日目~1カ月 (2022/9/24-10/22)	開業初日 (2022/9/23)	2日目~1カ月 (2022/9/24-10/22)
九州	107.1	71.6	+125.0	+36.9
佐賀県	114.1	68.9	+141.2	+33.6
武雄市	247.7	85.7	+558.8	+77.1
嬉野市	171.6	81.1	+287.4	+66.5
長崎県	126.1	71.6	+167.7	+37.1
長崎市	178.0	69.7	+324.8	+57.8
諫早市	81.4	65.7	+159.2	+25.8
大村市	80.6	63.1	+71.5	+22.1

注) 原数値の平均 資料) 九経調 DATASALAD

図2 おでかけ指数前年比の日次推移 (佐賀県・長崎県)



注) 原数値。曜日を合わせて比較 資料) 九経調 DATASALAD

3. 宿泊稼働指数による宿泊動向の分析

続いて、宿泊施設の稼働状況を市区町村別・日次別に明らかにできる「宿泊稼働指数」をもとに、西九州エリアの宿泊動向をみる。宿泊稼働指数は、宿泊を伴う人流を反映するもので、そのため相対的に遠方からの来訪者のウェイトが大きい。公共交通利用が中心であり、新幹線開通の影響を直接的に受けやすいと想定される。

新型コロナウイルス感染拡大第7波の収束に加え、2022/10/11より全国旅行支援が開始されたことで宿泊施設の稼働は全国的に高まっており、九州全体で指数は68.2、前年から30.4ポイントの上昇となっている(表3)。そのなかで、西九州新幹線沿線市ではいずれも九州全体を上回る高水準となっており、特に武雄市は93.4と水準が高く(つまり空室が少ない状況)。また長崎市は、他に比べて供給客室数規模が大きいいため普段は高い指数になりにくいですが、開業後には前年差で+42.2ポイントの大幅上昇と改善が目立つ。

表3 宿泊稼働指数の開業前後比較

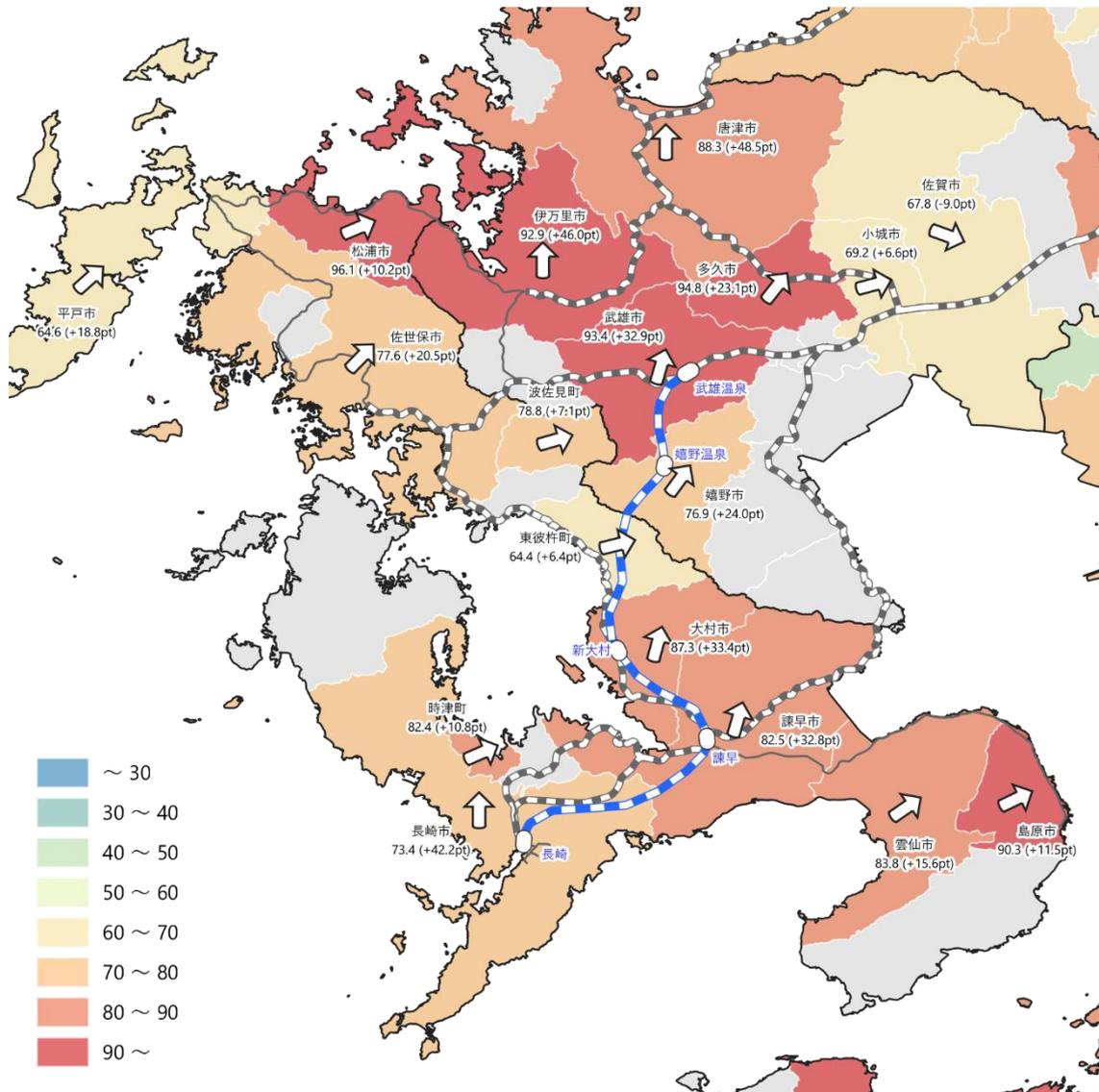
	開業前	開業後	前年差 (pt)
	(2021/9/24-10/23)	(2022/9/23-10/22)	
九州	37.8	68.2	+30.4
佐賀県	51.9	75.1	+23.3
武雄市	60.5	93.4	+32.9
嬉野市	52.9	76.9	+24.0
長崎県	43.2	74.9	+31.7
長崎市	31.2	73.4	+42.2
諫早市	49.7	82.5	+32.8
大村市	54.0	87.3	+33.4

注) 原数値の平均 資料) 九経調 DATASALAD

稼働状況は、西九州エリアの周辺地域も含めて好調である。宿泊稼働指数は沿線・周辺地域の多くが70~90台と高水準である(図3)。特に松浦市(96.1)や多久市(94.8)、伊万里市(92.9)など武雄市の近隣のほか、島原市(90.3)では90を超えている。また前年からの伸び(前年差)も、唐津市、伊万里市など広い地域で大幅な上昇となっている。

ただし、10月11日に始まった全国旅行支援の後押しを受けている面もあるため、西九州新幹線の開業がどの程度貢献したかを判断するのは、現時点では早計である。今後、長崎市で長崎マリオットホテルの開業や、嬉野温泉駅前に新設された道の駅でもマリオット系列のホテル開業が予定されている。需要面のみならず、こうした供給面の変化も捉えながら、引き続き注視していく。

図3 開業後1カ月間の宿泊稼働指数（指数による階級区分図）と開業前後比較（変化方向）



注) 矢印は開業前後の変化方向、ラベルは「指数（指数前年差）」

資料) 九経調 DATASALAD

4. 今後に向けて

以上のように、開業後1カ月間においては、開業区間の終端にあたる武雄市や長崎市において人流の増加がみられ、宿泊施設の稼働も高まっている。またこれらの地域は、1カ月のみの結果とはいえ効果の持続性も相対的に高い傾向がある。一方、諫早市や大村市では明確な人流増加はみられず、沿線地域のなかで明暗が分かれている現状である。また、周辺地域における人流増加はまだら模様である。

CCCマーケティング総合研究所の分析では、この1カ月間に来訪が増えたのは旅行好きのファミリー層や鉄道好きの層であったことが明らかになっている。開業効果が持続するか否かは、これらの層にとどまらず、より幅広い層が動くかどうかや、リピート客を獲得できるかどうかにかかっている。また開業効果を周辺地域にも波及させるため、「佐賀・長崎デスティネーションキャンペーン」をはじめ、各地で集客の取り組みがなされているところである。CCCマーケティング総合研究所と当会は、引き続き状況を注視しながら、効果の拡大・持続に向けた施策等の検討を進めていく所存である。

小柳 真二（事業開発部 主任研究員）

E-mail: skoyanagi@kerc.or.jp